

くずし字による古典教育の試み（5） —江戸時代の「桃太郎」を読む・補遺—

加藤 直 志

加藤 弓 枝¹・三宅 宏 幸²

【抄録】 2015年度より、日本近世文学会による「出前授業」を行ってきたが、2019年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で新たな授業実践も中止を余儀なくされた。しかしながら、「出前授業」の歩みは続いており、2020年2月のSSH4年次研究成果発表会において、「くずし字で読む、江戸時代の「桃太郎」—日本近世文学会による「出前授業」—」と題する公開授業を行った。2019年度の中学1年生を対象としたアンケート調査の結果や、授業検討会での意見交換の内容を紹介し、今後の展望をまとめた。

【キーワード】 くずし字 日本近世文学会 和ホリテラシー 古典教育 伝統的な言語文化 桃太郎

1. はじめに

2020年2月7日（金）、名古屋大学教育学部附属中・高等学校（以下、「本校」と略記する）において、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）4年次 研究成果発表会「課題の本質に迫る多様なアプローチを育む—協同的探究学習を核として—」が開催された。当日は中学1年生から高校2年生まで、様々な授業を公開したが、中学1年B組では「くずし字で読む、江戸時代の「桃太郎」—日本近世文学会による「出前授業」—」と題する公開授業を行った。

本校では、2016年3月以降、毎年同時期に日本近世文学会による「出前授業」を行ってきた。2018年3月以降は、教育関係者・学会関係者に限って、授業を参観していただくという試みも始めた。さらに多くの先生方に参観していただき、この試みについて理解を深めていただくと同時に、授業後に開催される授業検討会などを通じて授業についてのご意見をうかがうことで、今後の参考にしたいとの思いから、2020年においては、学校側の理解・協力も得て、SSHの研究成果発表会のなかで開催することとした。多くの参観者が見込まれることもあり、2016年3月、2018年3月と、何度か実施した経験のある「桃太郎」を選んだ。

なお、2020年3月17日（火）に、中学1年A組を対象に、新しい教材を用いた「出前授業」も予定していたのだが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による休校

措置により、中止を余儀なくされた。そこで、本稿においては、新しい題材による授業実践ではなく、2月に行った、SSH4年次研究成果発表会についての報告を行うこととした。上述の通り、「桃太郎」の授業は過去にも実施し、すでに実践報告も公表しているものであるが（注1）、2019年度の中学1年B組の生徒を対象としたアンケート調査の結果報告や、参観された先生方のご意見などを紹介し、今後の展望などをまとめた。

2. 古典学習に関するアンケート（事前）

これまでにも、出前授業の前後に、古典学習に関するアンケートを実施し、結果の分析・報告を行ってきた（注2）。中学1年生を対象としたアンケートとしては、2016年度と2018年度に実施したが、2016年度は「さるかに合戦」の授業の前後、2018年度は「百人一首」の授業の前後である。2015年度には行っていないため、「桃太郎」の授業の前後のアンケート調査としては、今回が初めてである（2017年度にも「桃太郎」の授業は実施したが、中学生対象のアンケートは行わなかった）。

2019年度、2018年度、2016年度の事前アンケートの結果を比較することで、古典学習に関する意識に、学年間で違いがあるのかどうかを分析した（注3）。なお、本校（中学校）は、各学年2クラスを置くが、2019年度に関しては、中学1年B組だけでしか調査を行うことができなかった。A組でも行う予定であったが、休校で実施

*1 鶴見大学文学部准教授

*2 愛知県立大学日本文化学部准教授

できなくなってしまった。そのため、2018年度、2016年度の事前アンケートに関しては、人数は省略し、%だけを再掲することとする（【表①】）。

【表①】

(対象 上段2019年度中1・38名、中段2018年度中1・79名、下段2016年度中1・80名)

	ア	イ	ウ	エ
国語の学習は大切だと思いますか？	22人 57.9%	15人 39.5%	0人 0%	1人 2.7%
	74.7%	21.6%	1.3%	2.6%
	60.0%	36.3%	2.5%	1.3%
国語の学習は好きですか？	14人 36.9%	16人 42.2%	5人 13.2%	3人 7.9%
	22.8%	35.5%	29.2%	12.7%
	37.5%	43.8%	11.3%	7.5%
古典の学習は大切だと思いますか？	3人 7.9%	20人 52.7%	13人 34.3%	2人 5.3%
	22.8%	40.6%	26.6%	8.9%
	30%	42.5%	20%	7.5%
古典の学習は好きですか？	13人 34.3%	13人 34.3%	9人 23.7%	3人 7.9%
	26.6%	31.7%	27.9%	12.7%
	41.3%	35%	16.3%	7.5%
くずし字が読めると良いと思いますか？	10人 26.4%	14人 36.9%	12人 31.6%	2人 5.3%
	21.6%	39.3%	22.8%	16.5%
	23.8%	38.8%	18.8%	18.8%

(%は、小数点以下第1位未満の数値を切り上げた)

ア：そう思う

イ：どちらかといえばそう思う

ウ：どちらかといえばそう思わない

エ：そう思わない

一方のクラス(38名)だけのデータになるが、2019年度中1に特徴的な点としては、「古典の学習は大切だと思う」という回答(アとイの回答を合算した数値を示す)が60.6%と、中1を対象とした過去3回の調査で最も低く[2018年度中1は63.4%、2016年度中1は72.5%]、アの「そう思う」という回答だけに絞ると、7.9%というこれまでにはなかった低い数値になっている。「古典の学習は好き」という回答が68.6%(ア+イ)[2018年度が58.3%、2016年度が76.3%]であることも考えると、古典の学習は嫌いではないが、何のために学んでいるのかという点には無頓着、あるいはあまり意義を見出していないという生徒が多いという可能性が浮かび上がってきた。高等学校進学後に、古典文法などの暗記事項が増えると、意義が見出せないことに加えて、学ぶことも嫌になってしまうというのではないかと危惧されるところである(注4)。古典に親しむとともに、古典を学ぶ意義について考えて欲しいというのが、今回の

「出前授業」のねらいである。なお、【表①】には含めなかったが、「くずし字を見たことはありますか？」という問いには、31名(82%)が「はい」と答えた[2018年度が68.4%、2016年度が92.5%]。前回同様、これらに加えて、古典というものへのイメージを問う自由記述の質問も行った。次節で事後アンケートと対照しながら紹介する。

3. 古典学習に関するアンケート(事後)

公開授業の次時には事後アンケートも実施した。以下に結果を示す(【表②】)。また、【表①】と【表②】の比較をしたのが、【表③】である。

【表②】

(対象 2019年度中1・38名)

	ア	イ	ウ	エ
国語の学習は大切だと思いますか？	23人 60.6%	14人 36.9%	0人 0%	1人 2.7%
国語の学習は好きですか？	12人 31.6%	19人 50.0%	4人 10.6%	3人 7.9%
古典の学習は大切だと思いますか？	14人 36.9%	16人 42.2%	5人 13.2%	3人 7.9%
古典の学習は好きですか？	16人 42.2%	14人 36.9%	4人 10.6%	4人 10.6%
くずし字が読めると良いと思いますか？	16人 42.2%	17人 44.8%	4人 10.6%	1人 2.7%

(%は、小数点以下第1位未満の数値を切り上げた)

ア：そう思う

イ：どちらかといえばそう思う

ウ：どちらかといえばそう思わない

エ：そう思わない

【表③】

(対象 事前・事後とも2019年度中1・38名)

	ア		イ	
	事前	事後	事前	事後
国語の学習は大切だと思いますか？	22人 57.9%	23人 60.6%	15人 39.5%	14人 36.9%
国語の学習は好きですか？	14人 36.9%	12人 31.6%	16人 42.2%	19人 50.0%
古典の学習は大切だと思いますか？	3人 7.9%	14人 36.9%	20人 52.7%	16人 42.2%
古典の学習は好きですか？	13人 34.3%	16人 42.2%	13人 34.3%	14人 36.9%
くずし字が読めると良いと思いますか？	10人 26.4%	16人 42.2%	14人 36.9%	17人 44.8%

(%は、小数点以下第1位未満の数値を切り上げた)

ア：そう思う

イ：どちらかといえばそう思う

出前授業を実施する前と後では、以下の変化が認められた。(アとイの回答を合算した数値を示した)

- ・「国語の学習は大切だと思う」と答えた回答率には、ほぼ変化がない。(97.4%→97.5%)
- ・「国語の学習が好き」だと答えた回答率には、ほぼ変化がない。(79.1%→81.6%)
- ・「古典の学習は大切だと思う」と答えた回答率は、かなり増加した。(60.6%→79.1%)
- ・「古典の学習が好き」だと答えた回答率は、増加した。(68.6%→79.1%)
- ・「くずし字が読めると良いと思う」と答えた回答率は、かなり増加した。(63.3%→87%)

「古典の学習は大切だと思う」に「そう思う」と回答した生徒が、3人から14人に増加し、古典を学ぶ意義への理解も深まったことがうかがえる。

前回同様、記述回答についても紹介しておく。事前アンケートで、「これまで学んできた古典文学作品に、どのようなイメージを持っていますか？何でもいいので感じたことを書いてみてください。」という質問をしており、同じ生徒が事後アンケートの「特別授業を受けて、古典文学作品のイメージは変わりましたか？変わったと

すれば、どのように変わったのか、書いてください。」という質問にどのように回答したかを比較した。便宜上、生徒の記述の変化をⅠ～Ⅲに分類し、その一部を掲載しておく【表④】。Ⅰは、もともと古典に肯定的な印象を持っていた生徒が、さらに理解を深めたという例(38名中7名)。Ⅱは、否定的だった生徒が、出前授業を通じて興味を持ってくれたという例(38名中19名)。Ⅲは、否定的な印象が変化しなかった例(38名中2名)である(なお、38名中10名は、Ⅰ～Ⅲの基準では分類が難しい回答であった)。Ⅰに分類した記述を含めて、古典は「難しい」が、読めれば面白いという意見が散見された。新崎昌代氏が、沖縄県の久米島西中学校での授業実践の際に行った古典に関する意識調査においても、「古典が好きではない」と答えた生徒の多くがその理由として「意味がわからない」「難しい」といったことを挙げている(注5)。「難しい」と感じて敬遠しがちな古典に、いかに興味をもたせ、古典を学ぶ意義を伝えていくのかは、本校だけに限ったことではない、共通かつ重要な課題といえる。

【表④】

	事前	事後
Ⅰ	言葉遊びが多く、それに気付けると楽しい。とても難しいことが書いてあると思っていたが、意外に分かりやすく面白い文章が書いてあると思った。	古典文学を読むと自分の考えがひろがるということは元から思っていたが、昔の人々が我々に伝えようとしたことを生活に活かし、我々も後に伝えるということもできることが分かり、感動した。
Ⅱ	古典は難しそう。現代の言葉と同じ言葉なのに意味がちがったり、読み方もちがったりしてあまり読む気になれない。でも、意味さえ理解できれば面白いなと思える。	授業を受ける前は昔の物なんて読む必要ないと思っていたが、授業を受けて、99%以上の古典が未だ解読されていないときいて、やっぱり古典は必要だと思った。昔のものを今の時代で無いものにしてはいけないと思った。
	表現が難しい。読んですぐには内容の理解ができない。	古典は、くずし字が読めればあまり難しくなかったと思った。過去のことを知るためには、古典は重要だと思った。
Ⅲ	少し分かりにくい。読むのが大変。	変わっていない。

4. 授業検討会より

当日は、午前中公開授業を行い、20名程の方が参観された。昼食休憩を挟んだ午後、授業者および助言者、参観者10名程による、授業検討会も開催した。本節では、検討会での意見交換の記録(一部)を紹介する。(なお、ご本人の許可を得た上で掲載している)

[景井詳雅氏(洛星中学・高校教諭)]

●今回の授業はこれで完結として、今後はどう展開するのか。普段の授業にどのようにつなぐのか？

→加藤直志

○我々も普段の古典の授業につなげていくのが次の課題だと考えている。昨年は百人一首を教材にして、教科書教材の和歌につなげることを目論ん

だ。高校生対象の授業であれば、古典文法を学んだ上で取り組むような課題設定もできる。

[舟橋紀一氏(愛知県立古知野高等学校(定時制)教諭)]

●それぞれの授業者から見て、どこに焦点を当てて古典の授業をするとよいと考えているのか？

→加藤弓枝

○自分との関わりを意識させることが大切である。現代と古典をつなぐ視点をもって授業をしてもらえるとうれしい。

→三宅宏幸

○古典文学にあることが現代のマンガの表現などにもつながることも知らせたい。それに伴い、日本人が日本語で書かれたものが読めていないという認識が必要。日本のことをよく知った上で、世界

に出て行ける人になってほしい。

→加藤直志

○教科書の古典教材の一部は再考の時期に来ているのではない。中古の文体で文語文法を学べば、後の時代の文献を読むのにも有効ではあるのだが、一方で、平安時代は現代との距離が遠く、生徒が興味を持ちにくい面もある。現代に比較的近い近世の教材も有効に利用できるとよいのではないか。(注6)

[助言者：渡邊雅子氏（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授、社会学）]

- フランスでは古典をととても大事にする。学ぶ目的も明確で、論述を行う際の論証の根拠にするため。大学入試にあたる、バカロレア試験は全て大論述問題であり、国語と哲学は古典を中心に出题されるので小学校から書き方・読み方を積み上げて学ぶ。イランにおいても古典（特に詩とことわざ）は、国語教育の中心を占めている。それらに対して、日本は戦後の経験主義教育時代から、「古典を読み味わうこと」が目的であった。新指導要領で「自分のものの見方を広くする」が加わった。
- 今日の授業は、古典が自分の生活に結びつく瞬間があったのがよかった。節分の際に、鰯・柊を自宅で飾ったという生徒に手を挙げてもらったことで、より実感することができたのではないか。
- 教材に力がある。生徒を惹きつけることのできる内容だった。いつから今の桃太郎になったのか、などに広げてもよいのではないか。
- 授業の展開が巧みだった。津波の碑で締めくくったのが、古典の学習が現代にもつながることをインパクトをもって伝えていた。内容の推測→あとで仮名の表の一覧で確認という手順も、効率的でユニーク。

渡邊氏からは、フランスやイランとの比較といった視点からも助言をいただくことができた。我が国における古典教育の改善についての議論においても、諸外国との比較が注目されているところであり（注7）、時宜を得た、貴重なお話であった。

5. おわりに

国語科教育においては、高等学校の新学習指導要領に関して論争が起きているが、学習指導要領が改訂されたのは、高等学校だけではない。小学校においては、すでに2020年度から新指導要領に基づく検定教科書を用いた授業が開始されており、その中に、「和本リテラシー」との関わりにおいて、注目すべき箇所を発見した。

小学校の新指導要領の「第3章 各学年の内容（3）

我が国の言語文化に関する事項 ○言葉の由来や変化

第5学年及び第6学年」には、「ウ（中略）また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。」とある。この部分について、指導要領の解説は、「具体的には、仮名や漢字がどのように形成され、継承されてきたのかなどについて基本的な知識をもつこと、（後略）」（注8）と述べている。実際に、小学校6年生の教科書には「言葉 仮名の由来」（注9）、「日本の文字」（注10）といった単元があり、前者については、くずし字（変体仮名）で書かれた「うふぎ（うなぎ）」「おそぼ（おそば）」の看板の写真や、簡略なものではあるが現在の平仮名と変体仮名との対照表まで掲載されている。これまでも、古典教材に添えられた古典籍の写真にくずし字が写り込んでいるような例はあったが、変体仮名を参照しながら仮名の成り立ちを学ぶという学習内容は、画期的である。ただし、小学校段階でくずし字に興味を持ってもらった後、それを中学校や高等学校での古典学習へといかに接続させていくのが重要なところである。中学校でも2021年度から新指導要領が全面実施される。すでに教科書の見本が出来ているが、残念ながら小学校の教科書に見られたようなくずし字を学ぶ単元は含まれていない（注11）。今後公表されるであろう、新指導要領に基づく高等学校の教科書の内容についても注視したい。

とはいえ、学習指導要領や検定教科書が学校教育に大きな影響力を持つのは確かだが、必要に応じてそれらを補完できるような新しい教材や授業のあり方を独自に開発、提供していくことも欠かせまい。SSH4年次研究成果発表会での議論や日本学術会議からの提言などを踏まえ、出前授業と普段の授業をつなぐ、小学校と中学校そして高等学校や大学をつなぐ、現代と過去（前近代）をつなぐ、日本と諸外国をつなぐ、自己と他者とをつなぐ、様々なものを「つなぐ」古典教育が求められているといえようか。

本稿では、中学1年生対象の授業として紹介しているが、江戸時代の『桃太郎』は中高生だけでなく、小学生はもちろん大学生でも楽しく学べる内容となっている。実際、鶴見大学で加藤弓枝が、愛知県立大学で三宅宏幸が『桃太郎』を扱って授業をしたところ、「節分と混ぜ合わせたとわかった時が謎解きのようで楽しかった」という旨の感想が多かった。授業後に自身で調べて、「柊の葉のギザギザで鬼の目を刺し、鰯の頭を焼くにおいと煙で鬼が近寄らない効果や、鰯の頭を焼くにおいで鬼をおびき寄せ、柊の葉のギザギザで鬼の目を刺すという言い伝えがある地域もあるようです」といった伝承を教えてくださいました。学生たちのおおらかな教育となる可能性も見いだせた。学生たちの多くは、古典作品が現代に続く風習と関わることを実感することができ、興味を抱いたようであった。さらに、この

『桃太郎』は狂言『節分』とも関連がある他、桃太郎の鬼退治場面には歌舞伎の捕り物の影響が見て取れる。その点で、本作品は文楽や歌舞伎といった伝統芸能の学びにも発展できる。色々と調べることで、古典作品の工夫が判明するというのも「謎解き」のようで学習者は楽しめるのではないだろうか。

(注)

- 1 「桃太郎」を用いた授業実践の詳細については、加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み 一日本近世文学会による出前授業一」（『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』第61集、2016年12月）で報告したが、授業で使用したスライドは未掲載であった。そこで、本稿末尾に改めて掲載することとする。
- 2 加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸「くずし字による古典教育の試み（2）—江戸時代の「さるかに合戦」を読む—」（『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』第62集、2018年3月）、同「くずし字による古典教育の試み（3）—高校生と読む「北斎だるせん」—」（同第63集、2018年12月）、同「くずし字による古典教育の試み（4）—教科書教材としての『百人一首』から『教道化百人一首』へ—」（同第64集、2019年12月）を参照のこと。
- 3 2018年度のアンケート調査は、「くずし字による古典教育の試み（4）」（注2前掲）、2016年度は、「くずし字による古典教育の試み（2）」（注2前掲）で報告したものをそれぞれ利用している。
- 4 日本学術会議（言語・文学委員会 古典文化と言語文化委員会）「提言 高校国語教育の改善に向けて」（2020年6月30日）の「〈参考資料3〉大学入学時点での学生の古典意識」に、「機械的品詞分解・丸暗記的现代語訳による受動的学習により、古典を学ぶ意義が見つけられず、古典嫌いとなっている生徒・学生が多い」という指摘がある。（<http://www.scj.go.jp/ja/info/>

- kohyo/pdf/kohyo-24-t290-7.pdf 2020年7月22日閲覧。「くずし字による古典教育の試み（3）」（注2前掲）においても、中学1年生と高校1年生とを比較し、高校入学後に、国語嫌い、古典嫌いが増えていることをうかがわせる調査結果が得られた。
- 5 新崎昌代「古典を主体的に読む力を育成する授業の工夫—地域教材「久米島上江州家の茶に託す漢詩」の活用を通して—」（『月刊国語教育研究』第580号、2020年8月）。
 - 6 「提言 高校国語教育の改善に向けて」（注4前掲）も、近世の源氏入門書や絵入本を教材として活用することを提言している。
 - 7 「提言 高校国語教育の改善に向けて」（注4前掲）においても、諸外国の古典（国語）教育についての報告が〈参考資料〉として掲載されている。
 - 8 小学校学習指導要領およびその解説は、文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編 平成29年7月」（2018年、東洋館出版社）、129頁より引用。なお、引用文中のゴシック体は原文のままである。
 - 9 甲斐睦朗ほか『国語 六』（光村図書、2020年）、186～188頁。
 - 10 秋田喜代美ほか『新しい国語 六』（東京書籍、2020年）、132～133頁。なお、小学校の国語教科書は、4社から発行されているが、学校図書、教育出版に関しては、6年生の教科書も上下分冊となっており、本稿執筆時点で下巻が入手できず、仮名の成立に関する単元の内容についても未確認である。【付記】※3参照。
 - 11 4社すべて（光村図書、教育出版、東京書籍、三省堂）の2021年度版教科書見本を参照した。また、同4社の書写の教科書も確認したところ、「コラム 物語を千年書き継ぐ」と題し、絵巻から冊子、古活字本、注釈書、そして現代語訳や外国語訳、漫画、歌舞伎へと至る『源氏物語』の享受史を紹介したページを載せているもの（宮澤正明ほか『中学書写 一・二・三年』光村図書、2020年、88～89頁）があり、くずし字そのものを取り上げているわけではないが、書物の形態に触れており、「和本リテラシー」の観点からは興味深い。

【謝辞】

公開授業および授業検討会にご参加くださった皆様に、御礼申し上げます。

また、授業検討会の記録の労をおとりくださった、本校国語科の佐光美穂教諭にも御礼申し上げます。

【付記】

- ※1 本稿の執筆者の掲載順については、本校教員である加藤直志を最初に掲載し、加藤弓枝と三宅宏幸については五十音順で掲載した。あくまでも便宜的なものであり、研究内容の分担率等とは無関係である。
- ※2 本研究の一部は、JSPS科研費JP20H00792ならびに20K00326の助成を受けている。
- ※3 本稿の入稿後、学校図書の教科書では5年生、教育出版では6年生において、文字の歴史のなかで、くずし字についても触れられていることが確認できた。すべての小学生がくずし字について学ぶことになった。

【資料】スライド (パワーポイント)


くずし字を読みましょう！
日本近世文学会による
「和本リテラシー」出前授業

2020年2月7日 名古屋大学教育学部附属中学校

講師 三宅 宏幸 (愛知県立大学)
加藤 弓枝 (鶴見大学)

1

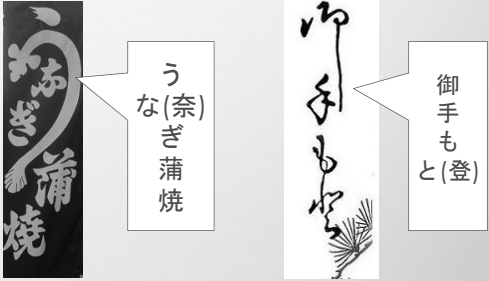
なんて書いてある？



生 そば
(楚)(者)

2

くずし字・変体仮名とは？



う
な(奈)
ぎ
蒲
焼

御
手
も
と(登)

3

これは誰？



桃
太
郎

4

実際に「くずし字」を
読んでみよう！

5

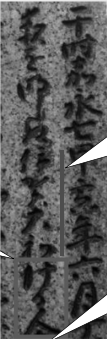
くずし字を学ぶ意義



大
地
震
の
口
川

6

「け〇人」…〇に入るのは？



伊
賀
大
和

(多
し)

け
が
人

7

くずし字を学ぶ意義

- (1)知らない世界を知ることができる
- (2)昔の人たちが我々に伝えようとした知識を現代に活かし、さらにそれを未来へと伝えることができる
- (3)古典籍・古文書の99%が未翻刻

8